

奥尻島の復興まちづくりの巡見を行いました(2017/8/7-8)

テーマ：北海道南西沖地震、奥尻島、津波、復興まちづくり
場所：北海道奥尻町

8月7日(月)～8日(火)、1993年7月12日に発生した北海道南西沖地震(M7.8)で甚大な津波被害を受けた奥尻島の巡見を行いました。メンバーは、所内から増田聡教授(人間・社会対応研究部門)、佐藤健教授(情報管理・社会連携部門)、定池祐季助教(同)、所外から村山良之教授(山形大学大学院教育実践研究科)、小田隆史准教授(宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター)、林田由那助手(早稲田大学教育・総合科学学術院)の6名で、定池祐季助教が総合企画と案内役を担いました。

2日間の巡見を通して、北海道南西沖地震の災害と復興の状況を学ぶとともに、震災後の学校における防災教育に関する情報収集を行うことができました。また、奥尻島津波語りべ隊の竹田彰氏、奥尻島観光協会の佐野由裕氏、奥尻町教育委員会の稲垣森太氏には、貴重な経験談と教訓を伺うこともできました。特に、2日目の巡見における竹田彰氏の案内と解説により、奥尻島の復興まちづくりの考え方に関する参加者の理解を深めることができました。

今後も続く東日本大震災の被災地における復興まちづくりと学校における防災教育の実践的研究の展開において、極めて有益な知見が得られ、充実した巡見となりました。2日間の巡見行程の概略は以下の通りです。

8月7日(月)：

青苗地区(奥尻島津波館・青苗漁港人工地盤・防災集団移転地区(望洋台団地)等)

8月8日(火)：

青苗地区(漁船漁業用作業保管施設・防災集団移転地区(道営住宅A団地・C団地)等)

稲穂地区(稲穂ふれあい研修センター・賽の河原公園等)



奥尻島津波館



慰霊施設(時空翔)



青苗漁港人工地盤



スロープ式津波避難路



稲穂地区防潮堤



稲穂ふれあい研修センター



津波避難階段



旧仮設住宅

文責：佐藤 健(情報管理・社会連携部門)